

【授業科目】解剖組織学実習

Practice of Anatomy and Histology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉浦 諭	1年次前期	必修	1	30	実習	なし	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／解剖組織学は人体の基本的構造を知るための最も基礎的な学問であるとともに、関連科目を修得するにあたり、重要な科目でもある。解剖組織学実習では正常な人体の形態と基本的な構造と、各器官(臓器)を構成する組織および細胞について実習を通して学修させる。人体模型等を用いて、人体における各臓器の位置関係、各臓器の外観や肉眼的な構造を理解しながら観察し、種々の臨床検査に対応するための解剖学的知識と生理学的知識も同時に修得させる。また、各器官(臓器)の正常組織標本を光学顕微鏡で観察し組織学的特徴を理解しながらスケッチすることで、関連科目の基礎となる組織学的知識も教授する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／レポート(スケッチ等)に対してコメントすることでフィードバックを行う。</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> ① 正常な器官(臓器)の形態と基本構造、および特徴を説明することができる。 ② 正常な組織の基本構造と特徴を説明することができる。 ③ 実物観察を通して、主要な器官を組織像から同定することができる。 ④ 模型観察を通して採血、検体採取及び生理学的検査に対応するための解剖学的知識を習得する。 							
時間外学習に 必要な学修内容 および 学習上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・構造と機能の両面の理解が必要となるため、スケッチした各臓器について解剖組織学特徴および生理機能に関して復習を行うこと(60分)。 ・実習内容で不明な点は、実習中に明確にするよう努めること。 ・授業計画に記載のない泌尿器系、生殖器系等についての実習も行います。 ・スケッチブック(A4サイズ)と色鉛筆(12色あれば問題なし)を使用します。 <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 ガイダンス および骨格系・神経系・呼吸器系・消化器系の配置と相互関係の把握</p> <p>第2・3回 顕微鏡による循環器系・骨格系・筋系組織の観察とスケッチ および人体模型観察</p> <p>第4・5回 顕微鏡による呼吸器系組織の観察とスケッチ および人体模型観察</p> <p>第6・7回 顕微鏡による消化器系組織の観察とスケッチ① および人体模型観察</p> <p>第8・9回 顕微鏡による消化器系組織の観察とスケッチ② および人体模型観察</p> <p>第10・11回 顕微鏡による泌尿器系・生殖器系組織の観察とスケッチ および人体模型観察</p> <p>第12・13回 顕微鏡による内分泌系組織の観察とスケッチ および人体模型観察</p> <p>第14・15回 顕微鏡による神経系・感覚器系組織の観察とスケッチ および人体模型観察</p>						<p>全て杉浦</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 レポート(スケッチ等) 50%、学期末試験 50%</p>							
教科書	『最新臨床検査学講座 解剖学』 医歯薬出版 『入門組織学』 南江堂			参考書等		なし		
学生への メッセージ	<p>臨床検査技師には欠かせない光学顕微鏡を主に用いる実習です。スケッチによる実習の目的は、組織や細胞の特徴を理解することと同時に、形態学を学ぶ上で必要な「観察するチカラ」を養うことにあると考えています。美しいスケッチを目指す必要はありませんが、後に学ぶ病理学等の基礎にもなりますので、しっかり取り組んでほしいです。</p>							